

言語文化 と 言語教育

— ことばを綴るとは？ —

日時：2019年12月26日(木)
13:30～15:30(受付開始13:00)

会場：武庫川女子大学中央キャンパス
I1103(研究所棟1階)裏面地図参照

— 参加無料 —

コメンテーター
渡邊 隆信(神戸大学教授、言語文化研究所学外研究員)

川地亜弥子(神戸大学准教授、言語文化研究所学外研究員)

岸本 千秋(言語文化研究所助教、言語文化研究所研究員)

司会：玉井 暲
(言語文化研究所長)

第2回フォーラムの開催にあたって

武庫川女子大学言語文化研究所と神戸大学との「大学間教育研究連携プロジェクト」は、昨年2018年度(平成30年度)に、その準備・助走のための試みとして第1回フォーラムを開催した。そのテーマは「綴り方教育と言語文化」であった。今年度はこのプロジェクトをより一層盤石なものとするために、第2回フォーラムを開催する。

「ことばの綴り方」というテーマは、作文教育、日本語教育、言語教育、さらには外国語教育にいたるまで、広範な領域におよぶ問題である。今回は、「綴り方教育」について、少し幅広い観点から検討を行うことをめざす。「ことばを綴る」とは、いったいどういう営みなのか、それはことばの習得にどのように関わってくるのか、また、このことばの習得のためにどのような活動がこれまで行われた歴史があるのか、あるいは現在、どのように行われているのか、そして文化の視点はどのように関わるのか。こういった関心について、講師の方々にはいくつかの問題を提起していただき、さらに、「ことばの綴り方」をめぐる研究されているコメンテーターの方々の意見を交えて、フォーラムに参加された多くの皆さんとじっくりと考えてみたい。

講師：佐竹 秀雄

(武庫川女子大学名誉教授、言語文化研究所研究員)

作文教育の意義と指導法

教育現場に作文指導を熱心に行っている教員がいるのは紛れもない事実である。しかし、全体的な視野でながめるとき、作文教育が十分な成果をあげていないことは残念ながら否定できない。他方、平成29・30年改訂の学習指導要領では、「思考力・判断力・表現力」が育成すべき能力として挙げられている。これらの能力は文章作成と直結するものであり、その意味で、作文教育の重要性は今後も一層増していくだろう。

教育現場の作文指導に関しては、現実的な課題がいくつも存在すると聞いている。そこで、そのことを踏まえた上で、根本的な問題として、作文教育の意義・目的と文章作成の方法論について考えたい。

発表では、そもそも「文章を書く」とはどういうことなのか、作文教育で目標とすべきことは何なのかを確認することから始める。そして、それに応じた文章作成の方法論を述べ、それをもとに、文章指導のあり方についていくつかの提案をする。

講師：山崎 洋子

(武庫川女子大学客員教授、言語文化研究所研究員)

言語教育と学校劇

— Dramatic Method of Teaching を訪ねて —

コミュニケーション能力の脆弱化が叫ばれて久しい。この状況は、子どもだけでなく一般社会においても例外ではない。それゆえであろうか、文部科学省は、「言語活動の充実」(平成20年中教審答申)を掲げ、これからの時代を生きる子どもたちの基礎的能力を「国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、楽しい学校生活を送るための人間関係を形成していく能力、多様なコミュニケーション能力」と規定し、平成22年5月「コミュニケーション教育推進会議」を設置した。この会議の座長が演劇家・平田オリザ氏であったことは記憶に新しい。このことは、言語教育における劇の有効性を示したことを意味するであろう。そこで本発表では、学校教育における劇(drama)の歴史をイギリスの教育史から紐解き、学校劇のバイオニア(Harriet Finlay-Johnson)の実践を検討する。そして、このことを踏まえて、その後日本で展開された学校劇論争を紹介し、言語教育について考えてみたい。

申込方法
メール・ファクス・ハガキのいずれか

申込締切
12月23日(月)

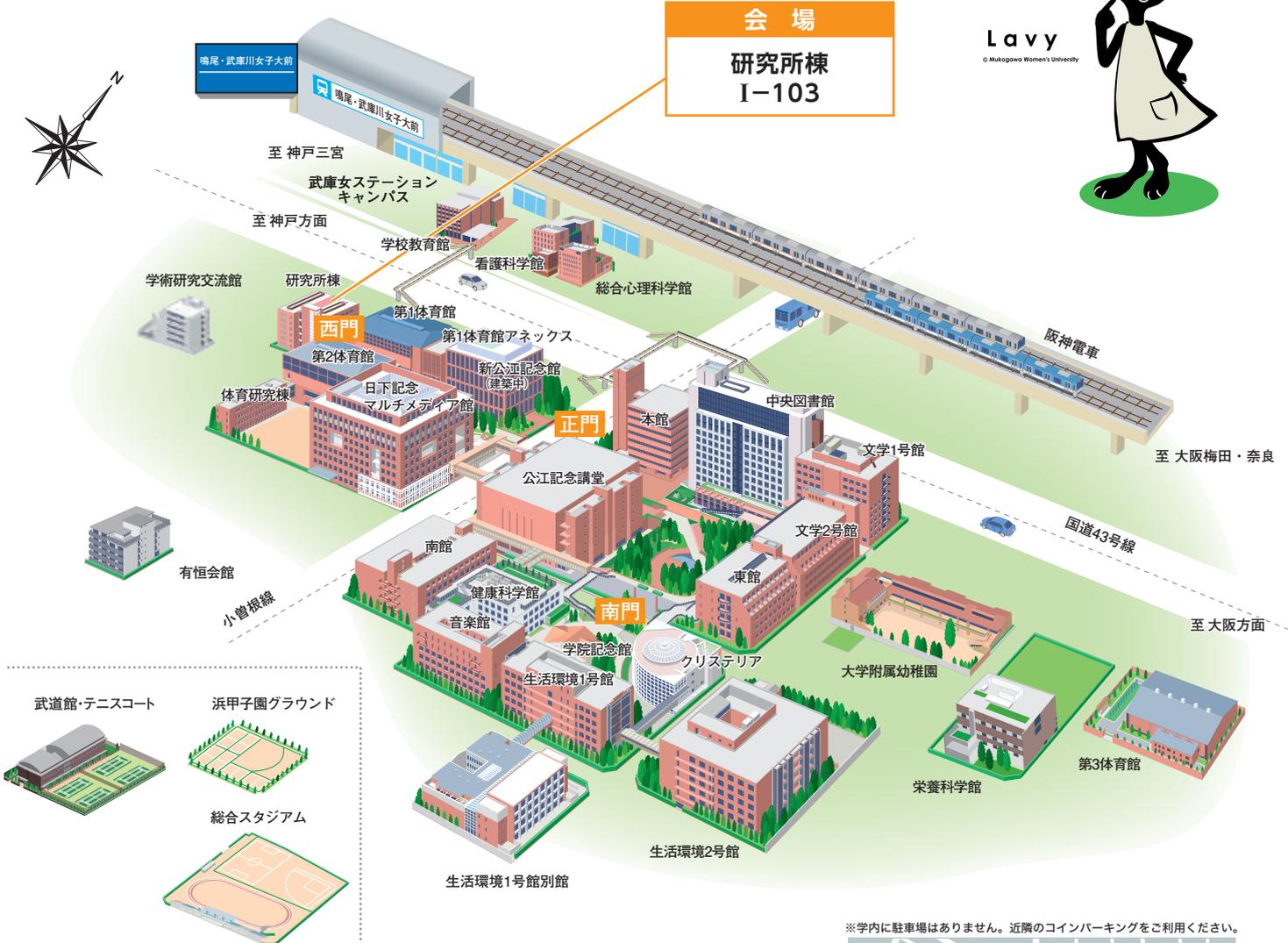
主催：武庫川女子大学 言語文化研究所

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46
阪神 鳴尾・武庫川女子大前駅下車 徒歩7分
メール：ilc@mukogawa-u.ac.jp
FAX：0798-45-3574 TEL：0798-45-3536

武庫川女子大学

言語文化研究所フォーラム

会場のご案内



※学内に駐車場はありません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

